

図書館だより

10月号

2025年10月29日

立川女子高等学校図書館

10月27日～11月9日まで、読書週間です。第1回の読書週間が開催されたのは、終戦まもない1947(昭和22)年です。「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という志のもと、出版社や取次会社、書店、公共図書館を中心に、新聞社や放送局なども協力して行われました。

読書は想像力を培うことができます。人の気持ちを考える、思いやりの心を持つために、想像力は必要なものです。皆さんもぜひ読書で想像力を高めてください。



今月の新着図書から



『自己肯定感は高くないとダメなのか』

榎本博明/著 筑摩書房

自己肯定感という言葉、いろいろなところで言われるようになりました。海外の国に比べて日本人の自己肯定感が低いという調査結果が出てから、子供たちの自己肯定感を高めなければと、褒めて伸ばす教育が主流になってきました。しかし、著者は、それを疑問視しています。日本人は謙虚なので、「自分に満足している」という質問に「はい」と答える若者が欧米の人たちと比べると少なくなるのは当然で、それを深刻に問題視をする必要があるのかと書いています。褒めて伸ばす教育を受けている皆さんは、著者の考えをどう思うでしょう?

371
E

『翠雨の人』

伊与原新/著 新潮社

日本のキュリー夫人と言われた実在の女性科学者・猿橋勝子さんの生涯を描いた小説です。猿橋さんは高校卒業後一度就職したものの学びたい夢をあきらめきれず、新しくできた帝國女子理学専門学校(現 東邦大学)に進学します。在学中に研究を中央気象台で行った縁で、そのまま研究者として就職した勝子は、米国がビキニ環礁で行った水爆実験で第五福竜丸の船員が被ばくした際、船に残っていた極微量の白い灰を地道に分析して原因を突き止めました。そして、放射能汚染の研究で世界的に有名な女性科学者となります。

913
イ

『天空遊園地まほろば』

浜口倫太郎/著 ポプラ社

亡くなった大切な人ともう一度会える不思議な遊園地「まほろば」。そこには、「会えるのは1時間だけ、さらに遊園地では決して泣いてはいけない。泣いてしまったら大切なものを失う」というルールがあり、それを守れる人だけが亡くなった人と再開できます。大好きだった父を亡くした女子高生、元カレに未練を持ったままの女性、父親と仲が悪かった男性など5名が、自分の気持ちをすっきりさせるために、この遊園地に向かいます。

1つずつのお話を短いので、朝の読書の時間に読んでみてはいかがでしょうか?

913
ハ

『本でした』

又吉直樹・ヨシタケシンスケ/著 ポプラ社

ある貧しい村はずれの空き家に、2人の男が住み着きました。彼らは、バラバラになってしまった本やタイトルだけになった本を特殊な技術で修復できる本屋を開きます。1人は又吉直樹さんのそっくりさん、1人はヨシタケシンスケのそっくりさん、どちらに直してほしいか選べます。村人たちには、この2人に害がないとわかると、復元依頼シートに記入して依頼をしてくるようになります。

913
マ

村人が依頼した本を読むことができるかたちで、物語が進んでいきます。クスッと笑ってしまう本や不思議な本がどんどん復元されていきます。

請求記号 書名

著者名	出版者
大井朋幸	岩波書店
スティーブン・グリーンプラット	岩波書店
永井幸寿	岩波書店
友松夕香	岩波書店
小川公代	岩波書店
池田喬	筑摩書房
承香院	翔泳社
角岡伸彦	筑摩書房
松はるな	あさ出版
神長幹雄	ペリカン社
榎本博明	筑摩書房
宮口幸治	筑摩書房
鈴木公啓	筑摩書房
濱中淳子	筑摩書房
韓光勲	ワニブックス
鈴木貫太郎	朝日新聞出版
吉村成弘	羊土社
きまたりょう	KADOKAWA
イエニー・ヨルダル	くもん出版
KADOKAWAライフスタイル編集部 編	KADOKAWA
おおのこうへい	PHP研究所
柴田ケイコ	PHP研究所
ユリー・シュルヴィツツ	福音館書店
ひのまだか	ヤマハ
ひのまだか	ヤマハ
萩谷由喜子	ヤマハ
ひのまだか	ヤマハ
ひのまだか	ヤマハ
萩谷由喜子	ヤマハ
ひのまだか	ヤマハ
ひのまだか	ヤマハ
ベートーヴェン	ヤマハ
犬塚美輪	筑摩書房
前田安正	筑摩書房
伊与原新	新潮社
小野寺史宜	集英社
澤村伊智 ほか	KADOKAWA
相沢沙呼 ほか	KADOKAWA
坂本葵	平凡社
久坂部羊 ほか	幻冬舎
浜口倫太郎	ポプラ社
ほしおさなえ	角川春樹事務所
ほしおさなえ	角川春樹事務所
又吉直樹	ポプラ社
柚木麻子	新潮社
ピップ・ウイリアムズ	小学館
ピップ・ウイリアムズ	小学館